

社会科〔公民的分野〕

「現代社会をとらえる見方や考え方」

1 目標

社会生活には様々な問題（トラブル）が生じていることに気付き、その具体的な解決策を考えることを通して、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。

2 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連

＜「法」に対する興味・関心＞

- ・社会生活を送っていることから生じる問題（トラブル）を解決するために、きまりをつくったり、取り決めを行ったりしていることについて身近に感じ、興味・関心をもつ。

＜「法」に対する知識・理解＞

- ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。

＜「法」に基づき社会の形成に参画する態度＞

- ・社会生活を送っていることから生じる問題（トラブル）を解決するための具体的な道筋についてとらえるとともに、身近な諸問題を解決するためのきまりをつくることに参画しようとする。

3 「法」に関する教育とかわりのある主な指導内容との関連

本単元は、中学校学習指導要領社会科〔公民的分野〕の内容（1）「イ 現代社会をとらえる見方や考え方」との関連を図って設定している。

4 指導計画（全4時間）

時	主な学習活動	主な指導上の留意点 （★「法」に関する教育と関連があるもの）
①	◇社会生活を快適にする方法を考える。 ・社会生活をする上で問題であると感じていることを挙げる。 ・挙げられた事象について、「私的事項か公的事項か」「マナー違反かルール違反か」「誰と誰が対立しているのか」などに分類する。 ・取り上げた内容についてどこに問題（トラブル）の原因があるのか、なぜ解決しないのかについて考える。 ・社会生活を送る上で、なぜきまりが必要なのかについて考える。	○通学路、学校、図書館、公園など生徒が普段利用している場面や場所を想起するように促す。 ○価値観や利害の違いによる問題があることに気付くようにする。 ★社会生活を送る上で様々な対立があり、その解決のためにきまりをつくるといった合意形成が行われていることを理解できるようにする。
② ③ 本時	◇「放置自転車問題」の解決策を考える。 ・放置自転車の実態についての調査内容を発表する。 ・どうすれば「放置自転車問題」が解決するのか、どうしてこれまで解決しなかったのかをグループごとに話し合う。 ・各グループの解決策をワークシートにまとめ、発表の仕方について話し合う。 ◇グループごとに「放置自転車問題」の解決策を発表する。 ・グループごとの解決策が有効かどうか意見を出し合う。 ・学級で「放置自転車問題」の解決策を一つにまとめ、「合意」について考える。	○どのような調査方法によって調べたのか発表するように助言する。 ○放置自転車に関する問題がなければ、公園の使い方など身近な事例を取り上げる。 ★具体的に解決する方法について、「対立と合意」「効率と公正」の考え方から追究するように助言する。
④	◇身近な諸問題の解決策について評価する。 ・前時に話し合った解決策について現実的で実現可能かという観点から評価し合う。 ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎にある「対立」「合意」「効率」「公正」について考える。 ・きまりを取り決めることの意味やきまりだけでは快適な生活を保障しきれないことを確認する。	○なぜ現実的ではないのかについて、困難な点を具体的に考えられるようにする。 ★マナーで解決できる問題とそれだけでは解決が困難な問題があることに気付き、きまりの意義について理解できるようにする。

5 「法」に関する教育と関連がある本時の展開

(1) 本時のねらい (第2・3時)

「放置自転車問題」を題材に、その具体的な解決策を考えることを通して、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎となっている対立と合意、効率と公正について考える。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と 関連があるもの)	評価
<p>【第2時】</p> <p>1 「放置自転車問題」の現状（位置や状況）について調べてきた内容をグループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅の周辺、商店街、河川敷など ・通行の妨げ、緊急時の支障、景観の悪化など <p>2 放置自転車の何が問題になっているのかについて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私的事項か公的事項か 通勤のスタイル、個人のマナー、モラルなど 駐輪場の整備、公共交通機関の整備、法（条例）の整備など ・発生場所から問題の特徴が見えるか 駅前、商店の前、道端、河川敷など ・対立しているのは、どのような立場か 放置者、歩行者、商店の経営者、住民、管理者など <p>3 どうすれば「放置自転車問題」が解決するのか解決策についてグループごとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人のモラル、マナーなどに訴える。 ・行政の力を借りて、監視・撤去を強化したり駐輪場を整備したりする。 ・きまりをつくって解決を図る。 	<p>○どのような調査方法によって調べたのか発表するように助言する。</p> <p>★条例については、公民的分野の導入なので深入りをせず、触れる程度にする。</p> <p>○バリアフリーの問題などにも気付くことができるようにする。</p> <p>○なぜこれまでなかなか解決してこなかったのか考えるようにする。</p> <p>★きまり(法)で規制すれば解決する問題かどうかについても考えるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>□「放置自転車問題」について主体的に調べ、考察しようとする。 (観察、発表)</p>
<p>【第3時】</p> <p>4 グループごとに解決策を発表する。聞き手はどの解決策が一番よいか考えながらワークシートに発表内容をまとめる。</p> <p>5 発表した解決策について、問題点を話し合う。</p> <p>＜話し合いの観点例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車が置かれているのは私有地か公有地か ・放置自転車を取り締まる法律やきまりはあるのか ・取締りを行う場合に必要な人数やコストはどうか ・誰かに取締りをする権限があるのか ・駐輪場を設置する場合のコストはどうか ・駐輪場の経費は誰が負担するのか <p>6 一番よい解決策について、5の観点を踏まえて選び、全員で修正を加え最良の解決策を考える。</p> <p>7 様々な自治体で行われている解決策を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナー向上キャンペーン ・監視・撤去の強化、駐輪場の設置・改善など 	<p>★それぞれの解決策について対立点はどこか、その解決策で合意形成は可能か、コスト面も含め効率的な解決策か、公正な解決策かなどについて考え、「対立」「合意」「効率」「公正」の概念を理解できるようにする。</p> <p>○「合意に至らなければ、解決できない」「誰の何が保障されるのか」「この合意は妥当か」という点をおさえる。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□現代社会をとらえる見方や考え方の基礎である対立と合意、効率と公正について考察し、表現している。 (発表、ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>□どの解決策がよいか理由を挙げて考え、表現している。 (発表、ワークシート)</p>

社会科〔公民的分野〕

「消費者の保護」

1 目標

消費者は限られた条件の中で選択することを通して経済活動を行っており、その選択については原則的に自己責任があることを理解するとともに、消費者の利益を守ることにについて国や地方公共団体は施策を実施する役割を担っていることを理解する。

2 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連

＜「法」に対する興味・関心＞

- ・日常生活において、契約という法的な行為があることを身近に感じ、関心をもつ。

＜「法」に対する知識・理解＞

- ・契約という概念を正しく理解し、対等な私人間（しじんかん）の契約には責任が伴うという原則があることや対等な関係ではない契約については政府が保護する役割を担っていることを理解する。

＜「法」に基づき社会の形成に参画する態度＞

- ・市民社会における私人間の利害が対立する場面において、法を意識して考え、根拠をもって解決していこうとする。

3 「法」に関する教育とかわりのある主な指導内容との関連

本単元は、中学校学習指導要領社会科〔公民的分野〕の内容(2)「イ 国民の生活と政府の役割」、(3 内容の取扱い)の(3)「イ イの「消費者の保護」については、消費者の自立の支援なども含めた消費者行政を取り扱うこと。」との関連を図って設定している。

4 指導計画（全5時間）

時	主な学習活動	主な指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
①	◇契約とはどのようなものかについて考える。 ・プロスポーツの選手などを例として取り上げ、契約のイメージを発表する。 ・二人一組で、架空の売買契約書を作成する。 ・売主、買主、売買する物、売買条件を決定する。 ・教師の整理で、契約の基本的な考え方を確認する。	○契約という学習内容に焦点化できるように身近な事例を示す。 ○契約書を書く中で、契約には基本的な原則があることに気付くようにする。 ★口約束も契約であることなど、対等な私人間の契約に気付くようにする。
② 本時	◇契約が解消できないような事例とできるような事例を基に、「契約が解消できるか、できないか」を話し合うことにより契約の原則について考える。 ・はじめは前時のペアで話し合う。 ・複数のペアを合わせてグループを再編し、話し合う。 ・次時に向けて、契約にかかわる疑問点を確認する。	○各ペアのハプニングカードについては、前時の契約書の内容によって教師が適切なカードを選んでおく。 ★対等な私人間の契約の原則を、模擬体験と場面設定を通して考えるようにする。
③	◇再編したグループごとに講師とワークショップ形式による意見交換を行い、取り上げた事例の解決策や疑問点を整理する。 ・自己の責任では対応できないようなケースについて話し合い、講師と意見交換をする。 ・新たなケースについて話し合い、講師と意見交換をする。	○授業の目的、進行状況、生徒の動きや実際の契約の例などについて、講師と事前に十分な打ち合わせを行う。 ★対等な私人間の契約についての原則を理解できるようにする。
④	◇契約についての原則を整理する。 ・例外的に契約を解消できる事例について学級全体で意見交換をする。 ・意見交換と教師による整理を基に、契約について分かったことや自分の意見、新たな疑問点などをワークシートにまとめる。	○単元の目標やねらいを整理する。 ○ワークショップで高まった課題意識を整理し、生徒の考え方や心構えが深まるような振り返りと整理を行う。
⑤	◇契約を解消できる仕組みなど、国や地方公共団体が実施する消費者の利益の擁護及び増進のための施策を調べて、まとめる。 ・消費者基本法、クーリングオフ制度などについて調べ、消費者が保護される理由や消費者の責任、国や地方公共団体の役割などについて考える。	○消費者基本法、クーリングオフ制度などについては、具体例を示し、その趣旨をとらえることができるようにする。

5 「法」に関する教育と関連がある本時の展開

(1) 本時のねらい (第2時)

契約を解消できる場合とできない場合のそれぞれの異なる2つの場面の設定を通して、私人間の契約の原則と責任について考える。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)	評価
<p>1 売買契約書を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で作成した契約書の内容を確認し、本時の見通しをもつことができるようにする。 <p>2 契約を解消できないような事例1・2のいずれかを選び、「契約を解消できるか、できないか」について考え、ワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><事例1> 私と母が同じものを購入したので、一方を返品したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事情を伝えれば、解消できる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><事例2> あるものを購入した後、同じものが近くの店で、安く売られていたので返品したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一度購入したものは、自分の都合だけでは解消できない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○二人一組のペアで考えるようにする。 ★対等な私人間の契約は解除できるのかどうかについて考えるようにする。 ○根拠とともに考えるように指示する。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□根拠を基に、契約解消できる場合かどうかについて考え、表現している。 (観察、ワークシート)</p>
<p>3 契約を解消できるような事例3・4のいずれかを選び、「契約を解消できるか、できないか」について考え、ワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><事例3> 商品を購入した後、偽物だと分かったので返品したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> だまされたことになるので解消できる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><事例4> 商品の代金を支払ったが、約束の日を過ぎても商品が来ないので、返金してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 期限を過ぎたというだけでは解消できない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○二人一組のペアで考えるようにする。 ★対等でない場合とは、どのような場合なのかについて考えるようにする。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□根拠を基に、契約解消できる場合かどうかについて考え、表現している。 (観察、ワークシート)</p>
<p>4 同じ事例を選択したペアでグループをつくり、それぞれの考えを発表し合い、契約の原則についての見方や考え方をまとめる。</p> <p>【契約を解消できる場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に考えて約束したのに、考える際の条件が違っている場合には、その約束に拘束される必要はない。 相手が約束を守らないのに、こちらだけが約束を守らなければならないというのは、公平ではない。 <p>【契約を解消できない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれ一方の都合だけでは、契約は解消できない。 数ある商品の中で自由に選択したのだから、十分に考えて約束したものは守らなくてはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ教師がグループを編成しておく。 (契約解消が可である事例が2つ、契約解消が不可である事例が2つなので、全体で4つのグループができる。) ○互いの発表を聞き合っ、自分たちの考えを修正する場合は、その内容をワークシートに記入するように指示する。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□他者と意見交換し、契約解消できる場合かどうかについて考え、表現している。 (観察、ワークシート)</p>
<p>5 次時に行う法律実務家を招いてのワークショップの際の質問事項を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見が対立した際は、どのように解決するのか。 条件が変わったときはどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで学んできたことを踏まえ、法律実務家に聞きたい内容を考えるように指示する。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>□契約について関心を深めている。 (観察、ワークシート)</p>

社会科〔公民的分野〕

「法に基づく政治」

1 目標

基本的人権を保障し社会生活の規範である法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。

2 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連

＜「法」に対する興味・関心＞

- ・日常生活には様々な法がかかっていることを身近に感じ、法に基づく政治に興味・関心をもつ。

＜「法」に対する知識・理解＞

- ・日本国憲法や法の条文の理解だけではなく、なぜそのような規定があるのかについて考えることの大切さや、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。

＜「法」に基づき社会の形成に参画する態度＞

- ・法の制定が社会生活の規範となって基本的人権を守っていくことや法に基づく政治が大切であることを踏まえ、将来、公民として政治に参加しようとする意欲と態度をもつ。

3 「法」に関する教育とかかわりのある主な指導内容との関連

本単元は、中学校学習指導要領社会科〔公民的分野〕の内容（3）「ア 人間の尊重と日本国憲法の基本原則」との関連を図って設定している。

4 指導計画（全3時間）

時	主な学習活動	主な指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
①	◇法の意義について考える。 ・社会生活におけるきまりや取り決めの意義について、「きまりの意義」の学習を振り返って考える。 ・「きまりは誰がどのように決め、守らせてきたのか。」について、律令や分国法などの歴史的分野の学習を踏まえ、主権者の在り方や法との関係から調べる。 ・憲法及び法は、誰がつくり、誰が守るのかについて考えることの大切さを確認する。	○政治学習の導入単元として既習事項を活用して展開する。 ★国民主権の考え方や民主的な社会における法の意義について、独裁政治や専制政治との比較から理解できるようにする。
② 本時	◇身近な生活に関連する法律を取り上げ、身近な生活と法とのかかわりについて考える。 ・国民投票法の成立によって成年年齢の引き下げが議論されていることをつかむ。 ・成年年齢が18歳になると身近な生活にどのような影響があるかについて話し合う。 ・成年を20歳から18歳に引き下げることについて考えたことを発表する。 ・法の意義及び法に基づいた政治の大切さについて分かったことをまとめる。	★国民投票法が憲法改正の手続きと関連した法律であることに触れる。 ○話合いの途中で、若者の就業状況や消費者問題にかかわる被害状況などのデータを紹介する。 ★法制審議会の報告書を紹介し、法の意義について考えるようにする。 ★法律が社会生活上での規範となっていることに気付くようにする。
③	◇法に基づく政治について考える。 ・第1・2時の学習を踏まえ、法に基づく政治がなぜ大切なのかについて考える。 ・法律が国民の権利と生活を守る役割を果たすためには、どうしたらよいかについて考える。 ・法律として定めるべきことと、法律にしてはならないことについて考える。 ・法律と憲法の関係についてまとめ、次時の学習内容「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」について、教師の話聞く。	○基本的人権及び日本国憲法の学習につなげる展開となるようにする。 ★法に基づく政治が民主政治の原理となっており、その運営によって恣意的支配を排除しようとしていること、独裁政治や専制政治とは異なるものであることが理解できるようにする。

5 「法」に関する教育と関連がある本時の展開

(1) 本時のねらい (第2時)

身近な生活と法とのかかわりを考えることを通して、法の意義及び法に基づいた政治の大切さについて理解する。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と 関連があるもの)	評価
<p>1 「大人」になるとはどのようなことか、自分の意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をして自分で生活ができるようになる。 ・結婚をする。 ・物事を自分で決められる。 ・自分の行動に責任をとる。 ・選挙権をもつ。 	<p>○ワークシートに記述してから発表する。</p> <p>★各意見を「感覚的なこと」「実態的なこと」「法律上のこと」に分ける。</p>	
<p>2 何歳ぐらいで「大人」になると思うかについて考え、国民投票法の成立によって成年年齢の引き下げが議論されていることをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校を卒業し、働く人が多くなる18歳 ・選挙権が与えられる20歳 ・大学を卒業する22歳ぐらい ・民法によって定められた年齢 	<p>★国民投票法が憲法改正の手続きと関連した法律であることに触れる。</p>	
<p>3 私たちの生活の中で、年齢による規制が法律で決められているものを挙げ、それらについて考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断力が十分ではない。 ・自分では責任をとれない。 	<p>★選挙権、飲酒・喫煙、結婚、サッカーくじ、車の免許などに年齢制限があることに気付くようにする。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□法と社会規範の関係を踏まえた自分の意見を考え、表現している。(発表、ワークシート)</p>
<p>4 成年年齢が18歳になると身近な生活にどのような影響があるかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利も保障されるが、義務を果たさなければならなくなる。 ・政治にもっと関心をもたなければならない。 ・悪質な商法に騙されないように勉強する必要がある。 ・成人式が18歳になり、親の同意なしに結婚できる。 	<p>○話合いの途中で、若者の就業状況や消費者問題にかかわる被害状況などのデータを紹介する。</p> <p>★法制審議会「民法の成年年齢の引き下げについての最終報告書」から、高校生の意見を紹介する。</p>	
<p>5 成年を20歳から18歳に引き下げることにについて考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人」としての自覚をもつために、18歳の選挙権と成人年齢は合わせたほうがよい。 ・20歳で成人ということが根付いているし、若い人たちを見ていてももっと社会のことを学んでからでないか自覚がもてないのではないか。 	<p>★法制審議会「民法の成年年齢の引き下げについての最終報告書」の結論を紹介し、法の意義について考えたことをワークシートにまとめる。また、国会の役割についても触れるようにする。</p>	
<p>6 法の意義及び法に基づいた政治の大切さについて分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法は、私たちの基本的人権を保障している。 ・法は生活の規範となって影響を与えており、法をつくる政治家を選ぶ選挙が重要である。 	<p>○生徒の意見を紹介しながら教師がまとめる。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>□法の意義及び法に基づいた政治の大切さについて理解している。(発表、ワークシート)</p>

社会科〔公民的分野〕

「法に基づく公正な裁判の保障」

1 目標

法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることや、そのために司法権の独立と法に基づく公正な裁判が憲法で保障されていることについて理解する。

2 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連

＜「法」に対する興味・関心＞

- ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するためには、公正な裁判が必要であると感じ、司法について興味・関心をもつ。

＜「法」に対する知識・理解＞

- ・裁判の仕組みや働きについて理解するとともに、司法権の独立と法に基づく公正な裁判が憲法で保障されていることについて理解する。

＜「法」に基づき社会の形成に参画する態度＞

- ・国民が司法に参加する意義と課題について考え、公正な司法を支える国民として主体的にかかわろうとする意識を高めようとする。

3 「法」に関する教育とかかわりのある主な指導内容との関連

本単元は、中学校学習指導要領社会科〔公民的分野〕の内容(3)「イ 民主政治と政治参加」、(3 内容の取扱い)の(4)「イ(イ)『法に基づく公正な裁判の保障』に関連させて、裁判員制度についても触れること。」との関連を図って設定している。

4 指導計画 (全6時間)

時	主な学習活動	主な指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
①	◇新聞の記事などを基に社会で起きている様々なトラブル(利害対立)の解決方法について考える。 ・新聞の記事から社会で起きているトラブルについて調べる。 ・警察がかかわるものとかかわらないものに分類する。 ・それぞれどのような解決方法があるかについて考える。 ・刑事裁判と民事裁判の違いの概要について確認する。	★当事者同士で紛争を解決できないときには、第三者が判断して解決する必要があることを理解し、裁判制度の意義について考えるようにする。
② ③ ④ 本時	◇刑事裁判と裁判員制度について考える。 ・刑事裁判が行われるまでの手続きを調べる。 ・架空の強盗傷害事件の裁判に関する資料を基に、被告人が有罪か無罪かを話し合う。 ・裁判官、裁判員、検察官、弁護人の果たす役割を考える。 ・自分が裁判員になったと仮定して判決を考える。 ・刑事裁判の原則を確認する。 ・裁判員制度の意義と課題を考える。	○シナリオに沿って生徒の役割を分担し、ロールプレイを行う。 ○評議は自由に議論できると自分の考えに固執しないことを確認する。 ★模擬裁判を通して裁判員制度の意義と課題を考えるようにする。
⑤	◇民事裁判について考える。 ・刑事裁判の事例の被告人が犯人(加害者)であると仮定して、この加害者が刑事罰以外にとるべき責任を考える。 ・被害者が加害者に対して請求する内容及びその際の加害者の対応について話し合う。 ・民事裁判が行われるまでの手続きを調べる。 ・民事裁判において裁判官、代理人の果たす役割を考える。 ・民事裁判の意義を考える。	★被害者と加害者の間で、話し合いがまとまらないときに民事裁判となることを理解できるようにする。 ★刑事裁判と民事裁判の手続き及び特徴の違いを理解できるようにする。
⑥	◇司法制度について考える。 ・日本国憲法における裁判を受ける権利の保障(第32条)について調べる。 ・三審制及び司法権の独立について考える。 ・裁判における司法制度改革などについて考える。	★裁判は「対立と合意」「効率と公正」の考え方が明確に現れるものであることから、この考え方を十分に理解できるようにする。

5 「法」に関する教育と関連がある本時の展開

(1) 本時のねらい (第2・3・4時)

裁判員裁判を想定した模擬裁判を行うことを通して、裁判員制度の意義と課題を理解し、国民の一人として自らが主体的にかかわろうとする意識を高めるようにする。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と 関連があるもの)	評価
<p>＜第2時＞</p> <p>1 刑事事件(強盗傷害事件)の裁判までの手続き、裁判官、裁判員、検察官、弁護人の役割等について調べる。</p> <p>2 あらかじめ決めておいた役割分担に基づいて、刑事裁判のロールプレイを行い、終了時に個人で1回目の判決について考える。</p>	<p>★法に基づいて公正に手続きが行われていることを理解できるようにする。</p> <p>○法廷の様子を再現し、役割を担う生徒以外は裁判員の立場とする。</p> <p>○判断の根拠を明確にするように指示する。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>□刑事裁判の基本原則、裁判官、検察官、弁護人の役割について理解している。(観察、ワークシート)</p>
<p>＜第3時＞</p> <p>3 評議として有罪、または無罪(有罪とは言い切れない)の証拠を出させ、その妥当性について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証拠Aの○○という点から有罪と考える。 ・証拠Aの○○という点から有罪とは言えない。 <p>4 刑事裁判の原則を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無罪推定の原則」 検察官は、無罪推定を覆すだけの有罪証拠を提出できなければ有罪判決を獲得できない。 ・「合理的な疑いが残らない程度の証明」 疑わしい(「罪を犯したらしいという程度の証明」)だけでは有罪とはされない。 ・「裁判所は第三者として判断する」 裁判所は自ら進んで有罪、無罪を調査するのではなく、検察官と被告人(弁護人)の主張や証拠を見て判断する。 <p>5 個人で2回目の判決について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証拠A、Bの○○という点から有罪と考える。 ・証拠C、Dの○○という点から無罪と考える。 	<p>★ある証拠が見方によっては有罪の証拠となったり、そうとは言い切れない可能性をもったりすることに気付くようにする。</p> <p>★どの証拠を重要と見るかで判断が異なることに気付くようにする。</p> <p>★2回目の判決を考える前に、刑事裁判の原則を確認する。</p> <p>★刑事裁判の原則に従って根拠を明確にして判断しなければならぬことを助言する。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□証拠として重視するものを抽出し、それを根拠に考察している。(観察・ワークシート)</p> <p>【技能】</p> <p>□資料から必要な情報を取り出している。(観察、ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>□刑事裁判の原則に従って判断し表現している。(ワークシート)</p>
<p>＜第4時＞</p> <p>6 裁判員制度導入の目的・意義と課題についてレポートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判の内容に国民の視点や感覚が反映される。 ・司法に対する国民の理解が深まり、信頼が高まる。 ・国民の自由や権利を守り、国民主権を実現することになる。 ・裁判員として活動するための環境整備が必要である。 ・国民への理解・啓発が必要である。 	<p>★自分が裁判員になった場合に、どのような心構えで参加すべきか考えるようにする。</p> <p>★自分たちの権利は自分たちで守るという民主政治の原則から制度導入の目的を考えるようにする。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>□裁判員制度の意義と課題を考察し、表現している。(発表、レポート)</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>□司法に対して主体的にかかわっていかうとする意識が高まっている。(レポート)</p>